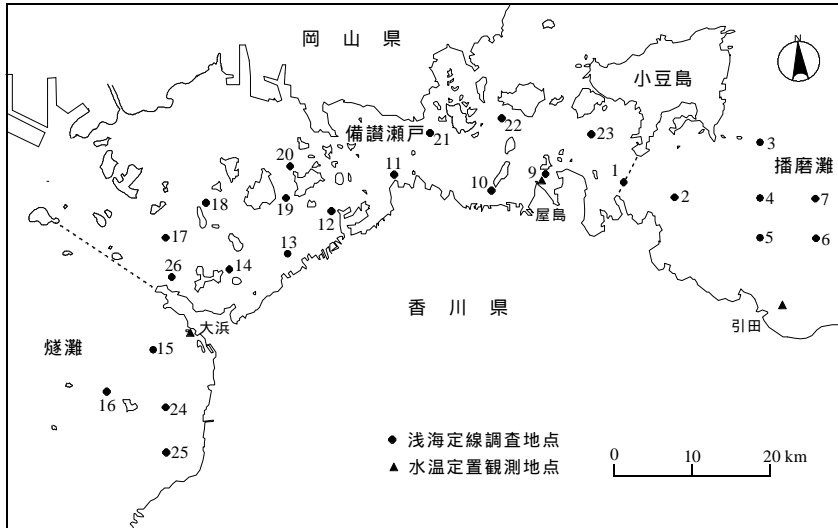


# 香川県漁海況速報 平成19年 12月 (H19-9号)

香川県水産試験場

## 1. 海況

### 1) 観測地点



### 2) 浅海定線調査

#### (1) 調査日

平成19年12月7日 (播磨灘) 6日 (備讃瀬戸、燧灘)

#### (2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「平年並みからやや高め」、塩分は「やや高め」、透明度は「平年並みからかなり高め」、溶存酸素は「平年並み」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	17.5	17.5	17.4	32.9	32.9	32.9	8.2	5.27	5.28
	平年値	16.8	16.8	16.8	32.1	32.1	32.2	7.3	5.35	5.25
	平年偏差	0.7	0.7	0.6	0.8	0.8	0.7	0.9	-0.09	0.02
	状況	やや高め	やや高め	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	16.3	16.2	16.2	33.1	33.1	33.1	7.6	5.40	5.31
	平年値	15.9	15.9	15.9	32.1	32.1	32.1	5.1	5.35	5.32
	平年偏差	0.4	0.3	0.3	1.0	1.0	0.9	2.5	0.05	-0.01
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	かなり高め	平年並み	平年並み
燧灘	4地点平均値	16.5	16.5	16.5	33.2	33.2	33.2	9.4	5.32	5.25
	平年値	16.3	16.3	16.3	32.4	32.4	32.4	7.5	5.39	5.28
	平年偏差	0.2	0.2	0.2	0.8	0.8	0.8	1.9	-0.07	-0.04
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み

平年偏差 = 平均値 - 平年値

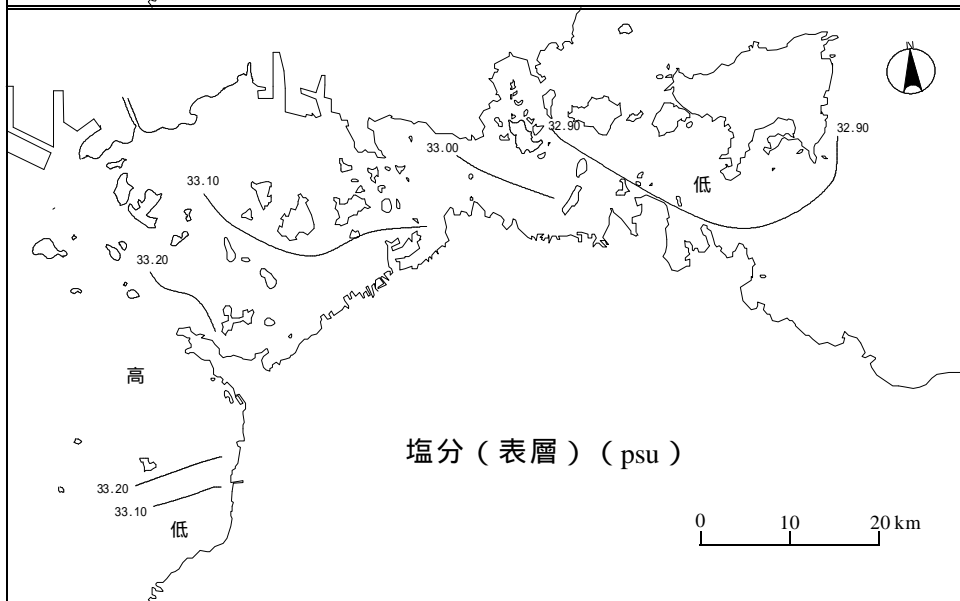
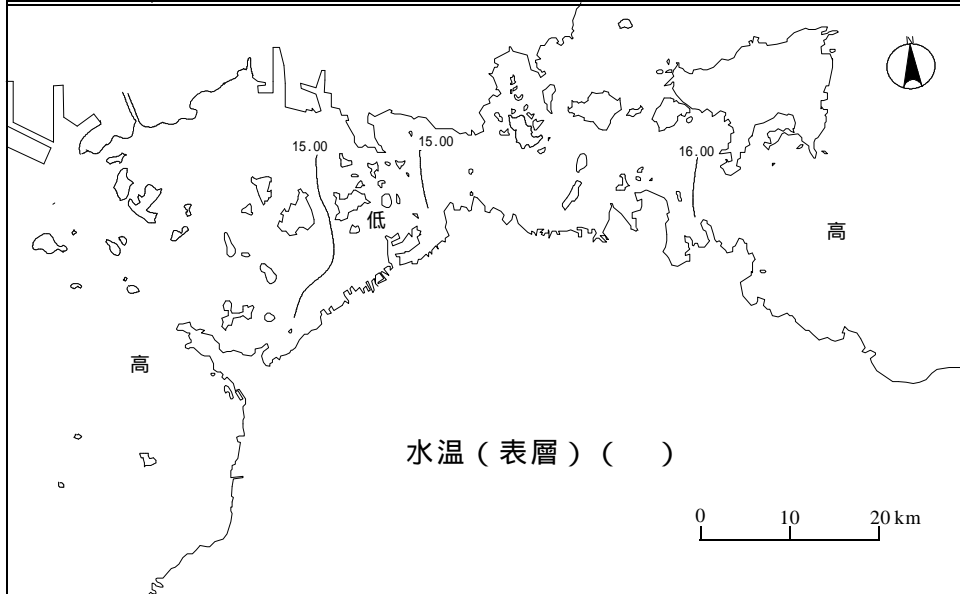
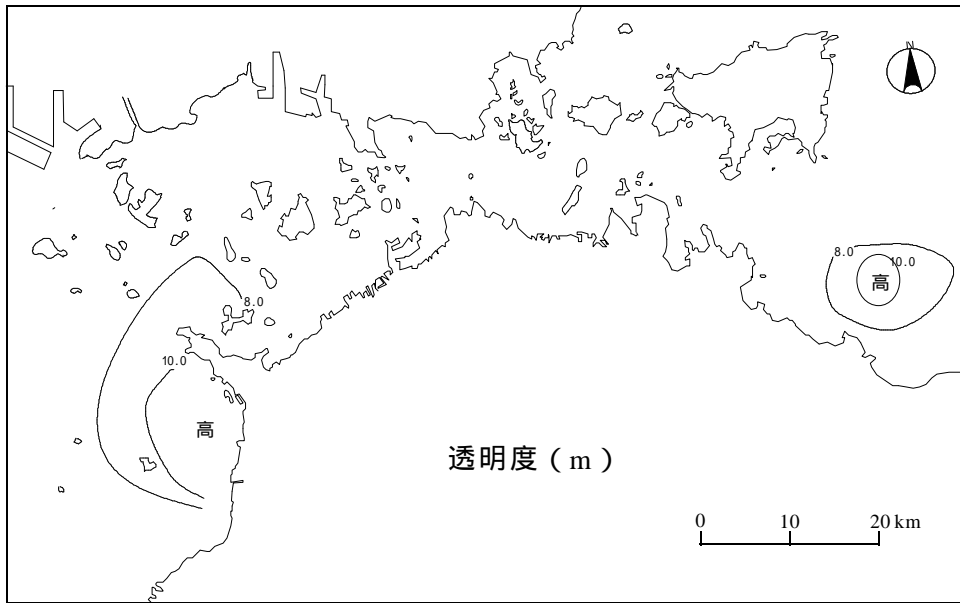
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	( : 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



### 3) 定置観測(水温)

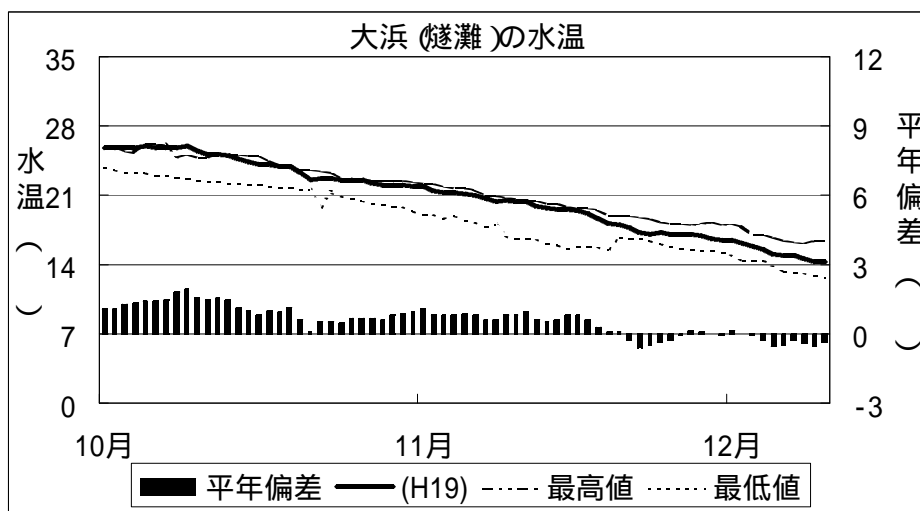
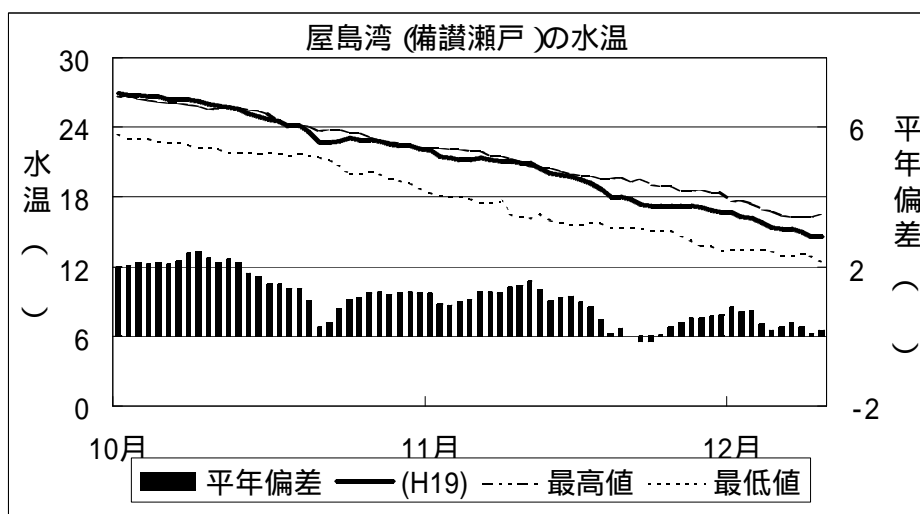
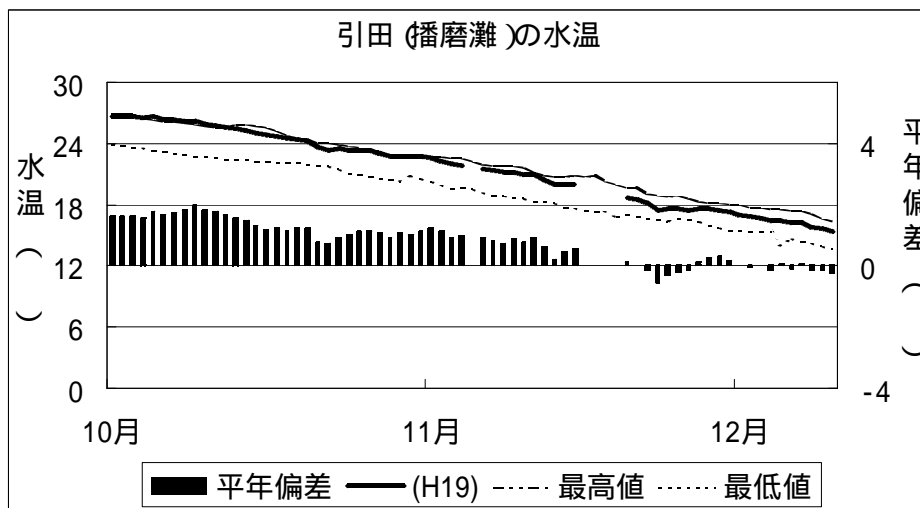
播磨灘(引田): 11月上旬は平年よりやや高め、中旬以降は平年並みで推移している。

備讃瀬戸(屋島): 11月前半は平年よりやや高めからかなり高め、後半以降平年並みで推移している。

燧灘(大浜): 11月前半は平年よりやや高め、後半以降平年並みで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成18(2006)年

屋島: 昭和50(1975)~平成18(2006)年



4) 赤潮(11月6日~12月10日)

播磨灘：11月14日~30日の間、内海湾でゴニオラックス・ポリグラマによる赤潮が発生(最高密度3,480細胞/m<sup>3</sup>)し、天然魚(メバル、カサゴ、カレイ)がへい死(数量不明)した。  
 備讃瀬戸：発生なし。  
 燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成19年12月7日(播磨灘) 6日(備讃瀬戸、燧灘)  
 出現量

個(尾)/曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.00	0.13
備讃瀬戸平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.00	0.33
燧灘平均	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
総平均	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.10	0.20

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.0%	-	-	-
備讃瀬戸平均	0.0%	-	0.0%	0.0%
燧灘平均	1450.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総平均	87.5%	-	0.0%	0.0%

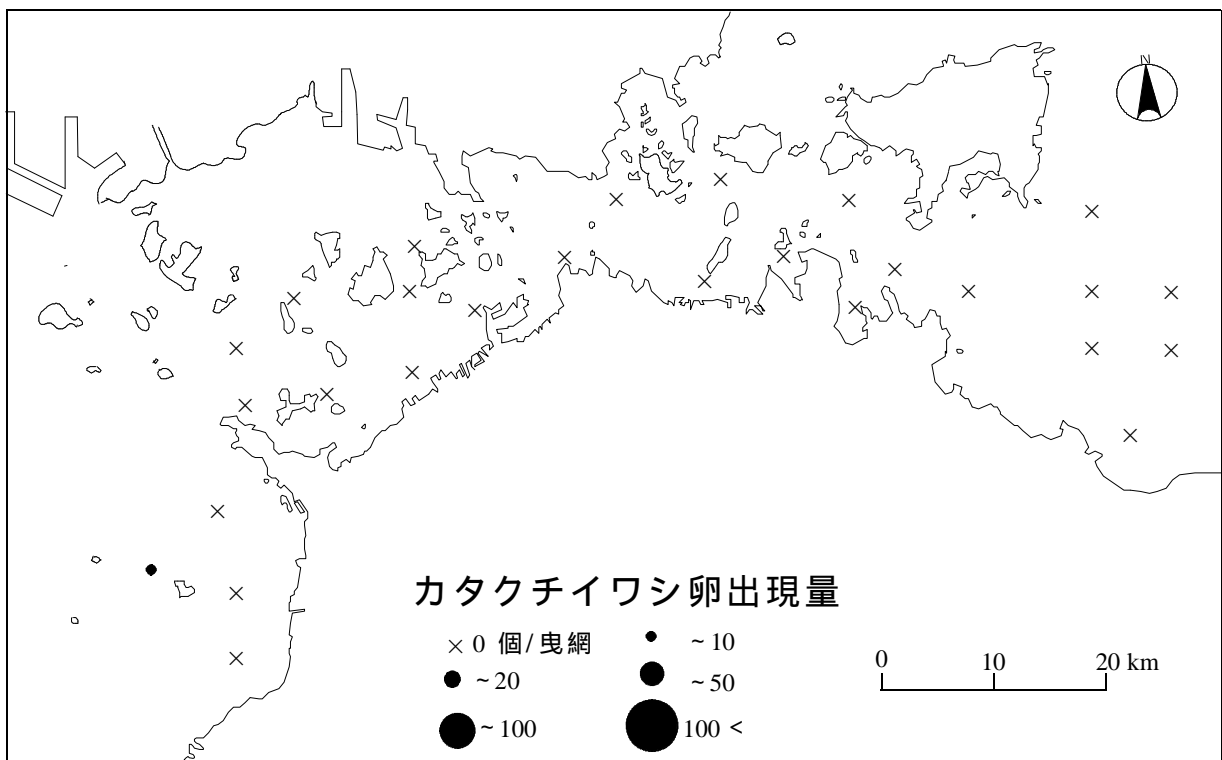
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55(1980)~平成18(2006)年度

マイワシ：平成5(1993)~平成18(2006)年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



## 2. 漁況

11月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では主にスズキ、マダイ、メイタガレイ、カワハギ、小エビ類が漁獲されている。</p> <p>桁網では主にスズキ、ヒラメ、タチウオ、アジ類、カワハギ、ウマズラハギが漁獲されている。</p> <p>船びき網のシラス漁は、11月中旬で漁期を終了したが、漁獲量は過去10年間では最も多い年であった。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、ヒラメ、マダイ(小)、マアナゴ、カワハギ、イイダコ、マダコ、アカニシ、小エビ類が漁獲されている。</p> <p>中讃・高松沖のタイラギ潜水器漁業は12月1日から操業が開始され、漁期始めの漁獲量は前年とほぼ同じで、80～100 Kg/隻・日程度である。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主にメイタガレイ、ウシノシタ類、ガザミ、カワハギ、小エビ類が漁獲されている。</p> <p>桁網ではスズキ、タチウオ、コノシロ、マダイが漁獲されている。</p> <p>サワラ流し刺網の漁期中(10, 11月)のサワラの漁獲量は約3トンで前年の約25%と不漁であった。</p>